

つながり

赤木城跡近く(熊野市)



病院スローガン(20年10月～) あいさつから始めましょう

－ 病院理念 －

優しく、温かい、確かな医療を提供し、紀南の環境文化に根ざした地域連携の充実に努めます

－ 基本方針 －

- 1、サービス精神(KINAN)の徹底
(K) 気持ちをこめて、(I) いつまでも、
(N) 納得のいく、(A) 安心で安全な、
(N) 任務の遂行
- 2、患者さんの権利を尊重し、わかりやすい説明を励行
- 3、生活の質(QOL: quality of life)を中心とした診療と援助
- 4、行政や医師会と協同した地域医療の向上
(救急医療、高齢者医療、健診、地域連携、福祉など)
- 5、職員研修の強化と遠隔地医療教育の必須化
- 6、職場環境の改善と健全な病院経営に基づく医療環境の提供

巨大地震に対する紀南病院の対応

紀南病院副院長 須崎 真

巨大地震に対する紀南病院の対応について、平成20年9月7日に御浜町中央公民館でおこなった救急の日の講演をもとに述べてみたい。

東海地震・東南海地震・南海地震は近い将来、ほぼ確実にやってくることが政府地震調査委員会の調査で予測されている。この三つの地震は歴史的に見ても同時に発生するか、または、ごく短い期間で連動して発生しており、当地域では特に東南海地震・南海地震の影響が甚大である。三重県地域防災計画の中で示されている被害予測では、熊野市、御浜町、紀宝町を合わせて、最大で死者251人、負傷者647人とされている。

(次ページへ)

災害時の医療は日常診療からあまりにも隔たりが大きく、未経験の領域であるため具体的にイメージすることは困難であるが、当地域のように医療資源が少なく、救援の面でもアクセスルートに乏しい地理的な弱点を合わせもっている場合には、災害に対する日ごろからの準備が特に大切である。

災害医療の特徴を端的に述べると、対象患者が非常に多いのに、対応可能な医療従事者が少ないという悪条件のなかで、出来るだけ多数の患者の救命を計らなければならない点である。そのような状況では患者の状態を短時間で診断し、重症度の判定を行わなければならない。そのために考え出された方法がトリアージである。

トリアージでは治療順位を一人数十秒以内に判定し、トリアージタグの色分けに従って必要最小限の治療を行う。色分けでは、赤：直ちに処置をすれば救命可能な最優先群、黄：多少治療が遅れても生命に危険がない群、緑：専門的な治療がほとんど不要な群、黒：既に死亡しているか直ちに処置を行っても救命は不可能な群の4つに分ける。

紀南病院では上記のゾーン分けを、複雑な処置が必要な赤の群のみ新館の2階で行う。そのほかの処置は全て屋外の駐車場を予定している。これは多人数の患者を想定すると、ある程度の広さが必要なことと、建物の倒壊の危険を考慮して、駐車場が最適と思われるからである。

この際問題になるのは、黄と緑の群を治療するために予定している病院北側の駐車場が、御浜町の津波時の避難場所として指定されていることである。避難住民が押し寄せるとの救助活動は大変な混乱が予想されるため、御浜町には避難場所の変更を以前から要請している。善処を期待するところである。

災害時にはパニック状態に陥ることは避けられないが、こんなときこそ医療側と被災患者側の協力が是非とも必要である。一般住民の方々に理解してほしいことは、災害時は非常事態であり、トリアージという荒っぽい診断方法を使用せざるを得ないことや、被災は病院にも及んでいることが多く、手術室や医療設備はライフラインの復旧まで使用できないことなどである。また、知っておいてほしいこととして、服用中の薬は1週間程度を備蓄しておくことと役に立つこと、さらに処方箋を常時携帯することが混乱時には大変有効な手段であることなどである。

紀南病院の震災に対する備えとして、新館倉庫には入院患者用に3日分程度の食料の備蓄があり、医薬品やテント、簡易トイレなども非常用品として備蓄されている。震災時にはこれらを利用して急性期に対処する予定である。

最後に、巨大地震後の紀南病院の対応を、当院のマニュアルに沿って大まかに述べてみると、まず、震度5弱以上の地震で紀南病院地震対策本部が設置される。緊急体制に入るかどうかは対策本部の協議で決定される。緊急体制を取ることになれば外来診療は中止する。非番で出勤可能な職員は病院に参集する。入院中の患者は職員が避難誘導する。自力で避難できない入院患者は職員が介助して避難させる。また軽症患者は各科医長の判断で退院させる。病院の損壊程度を担当の職員が点検する。院外の情報は防災無線などを通じて収集する。対策本部で病院の損壊程度や情報分析を行い、診療可能な状態であれば被災患者の受け入れを開始する。

以上が大まかな流れであるが、実際の場面で十分機能するかどうかは、やってみないとわからないのが実情である。職員の奮闘と患者、住民の方々の協力に期待したい。



「お薬手帳」のご利用について（お願い）

調剤薬局では「お薬手帳」を用意しています。「お薬手帳」には、あなたが服用しているお薬の名前や量が記入できるようになっています。

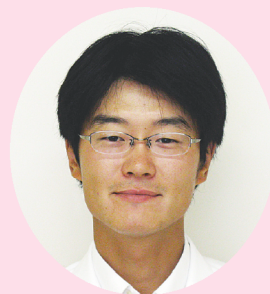
他の医療機関で受診するときに見せいただくと、お薬の重複を避けることができます。

出先での急病の時や、地震等の災害時、停電により電子カルテの運用が出来なくなった時に、正確に情報を伝えることができ、早く、確実に投薬を受けることができます。

「お薬手帳」はいつも持ち歩くようにし、災害や、急病に備えるようにしましょう。

低身長について

小児科医長
鈴木 幹啓



小児科外来では「うちの子は、クラスの他の生徒と比べて、身長が低いのですが、大丈夫でしょうか。」という質問をよく受けますので、「低身長」について簡単に説明したいと思います。「低身長」の基準は、一般的に100人の子供のうち、小さいほうから1～2番目程度のお子さんのことをいいます。子供には性格など個性があります。成長のパターンもそれぞれです。「低身長」には体質であったり、極めて早産・低体重で生まれたお子さんなど、病気ではないものがありますが、中には病気が隠れていることがあります。成長を調節するホルモンの異常、染色体の異常、骨や軟骨の異常などがあります。「低身長」の原因を検査することで重要な病気が見つかることもありますので早めに検査することが大切です。

「低身長」のうち、成長ホルモンの不足により起こるものを「成長ホルモン分泌不全性低身長症」といいます。診断をするには成長ホルモンの出具合を調べる検査が必要になります。紀南病院では入院（4日間の検査入院）のうえ検査を行っています。このようなお子さんの場合、成長ホルモンを注射で補充（家庭で自己注射してもらいます）することにより身長を伸ばすことができます。ただし、身長の伸びには時間がかかりますので、ほぼ毎日、何年にもわたって注射を続けることが必要です。成長ホルモンによる治療は、思春期を過ぎて骨端線が閉じてからでは効果がありませんので、早めに受診して下さい。早めに治療開始することにより、身長の伸びを改善することができる場合があります。

また、著しく身長が低く、一定の基準を満たすお子さんは医療費に対して国から補助が受けられます。低身長や身長の伸びの悪さが気になる場合は、一度小児科医に相談してください。

薬剤部紹介

2008年3月31日、風間薬剤部長が退職され、事務1名、薬剤師6名、最盛期には11名を数えたスタッフに比べれば、小さな薬剤部になりました。その分小回りが効くと考え、多種多様の業務に役割分担を試行錯誤しながら励んでおります。

院外処方箋の監査及び手渡し、調剤薬局よりの疑義紹介の対応、後発品への処方変更の報告、一部外来、きなん苑、及び入院患者の調剤業務、入院患者の注射セット、外来化学療法のみキシング、血液製剤の記録管理、病棟業務としては、薬剤管理指導業務、栄養サポートチーム（NST）への参加、医療安全管理等の業務のほかに、紀南薬剤師会の定期勉強会、また、DPCに向けての採用薬剤の分析が始まります。

10月18日には、全国国保地域医療学会への参加予定もあります。

写真中央付近は、6月に迎えた実習生です。薬剤部では学生の教育にも力をいれています。

小さな薬剤部ですが、大きな力を発揮できるようスタッフ一同丸となって頑張っています。



<訪問看護始めました>

当紀南病院では、10月より訪問看護サービスを開始しました。看護師が介護保険や特定疾患対象者の方の自宅に訪問して、医療処置、リハビリ等を行います。お問合せは地域連携室（ちいきれんけいしつ）までご連絡ください。

接遇向上セミナーの開催

患者さんによりよい医療サービスを提供できるようにと、7月から3回にわたって、三重大学地域医療学講座の武田裕子先生を講師に、当院職員を対象とした接遇向上セミナーを開催しました。

住民のボランティアさんに患者さん役を演じていただき、その対応を実際に職員がおこないそれをもとに皆で意見交換をおこないました。

実際にそれぞれが演じること、また他人の対応を見ることにより、気がつかなかった不十分どころや、今後にかせる新しい発見もたくさんありました。

このセミナーの経験を活かして、患者さんの立場に立った優しい対応を心がけていくことを確認しました。



ボランティアでご参加いただいた 模擬患者さんの感想

山路 セイ さん

緊張しましたが、人と人とのつながり、いろんな場面での対応の仕方、間の取り方などこちらも非常に勉強になりました。紀南病院は地元唯一の病院ですし、職員の皆さんには接遇の達人になっていただき、ますます良い病院になって欲しいです。

西 恵子 さん

模擬患者さんを演じて、自分のためになることもあります。医師への病状の伝え方によって受け取り方が全然違って来る場合があり、いかにうまく伝えるかということが大切だと気づかされました。



写真左が西さん、右が山路さん

内科・武田裕子先生 (三重大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 寄附講座・教授) インタビュー



今回の接遇セミナーだけでなく、武田先生には様々な活動を企画・実践していただいています。武田裕子先生をご紹介します。

——— 武田先生は三重県の寄附講座事業として、毎週紀南病院に来ていただいています、どのような事業なのでしょう。

『寄附講座は、地域医療に従事する人材育成を進め、過疎化・高齢化が進む地域や、交通が不便な地域における医療体制を検討するために、三重県の寄附によって三重大学大学院医学系研究科に地域医療学講座として設立されました。2007年3月に開設され、3年間の有効期限となっています。』

——— 具体的にはどのような活動をなさっているのでしょうか。

『それぞれの「地域」で、安心してより健康に暮らすために必要な「医療」を、医療を提供する側と受ける側の両方で協力してつくりあげるお手伝いをしています。三重県健康福祉部医療政策室と緊密な連携を取りながら、県内各地で、市民公開講座やシンポジウムを企画して啓発に努めています。東紀州を中心に診療支援も一部行っています。

地域医療を担う人材の育成には、地域を知り、地域から学ぶ体験が不可欠です。そのための学内外での教育プログラムづくりや、医学生・研修医への地域医療実習・研修の紹介を行っています。紀南病院にも多大なご協力をいただいています。さらに、地域住民が医療従事者を育てるという認識のもと、紀南地区で住民ボランティアを募り、模擬患者を養成しています。これまでに、紀南病院の職員研修をはじめ、県内の指導医養成セミナーなどで大活躍中です。関心のある方は、ぜひご連絡いただければと思います。

大学では、医師遍在や遠隔地における診療・教育支援に関する研究を行ったり、授業を担当したり、国際協力に関する仕事をしたりと大忙しな日々を送っています。』

——— 紀南病院の印象はいかがでしょうか。

『野口病院長風にたとえて言うと、“ひょっこりひょうたん島”でしょうか。愛と涙と笑いと勇気にあふれた病院という印象です。ユニークで志が高く、地域のためならまっしぐらという職員の皆さんが、日々、悩みながらも希望を胸に前進中という姿を見せていただいているように思います。』

——— ありがとうございます。最後に、今後の地域医療に期待することをお聞かせください。

『最近、地域医療は、地域づくり・ひとづくりと思うようになりました。地域にお住まいの一人ひとりが、自分は必要とされていると感じながら、生きがいをもって安心して暮らしていける地域づくりが進むことを期待します。人間、いつかはその人生に幕を引くことになるわけですが、最後まで自分らしい決断をできるように、自分の受けたい医療やいのちの質について、考えていっていただきたいです。』(談)

医療タウンミーティング

『白衣を脱いだ先生たちと気軽に語り合おう』 IN熊野

平成20年8月23日、熊野市保健福祉センターで小児科・産婦人科に特化したタウンミーティングが開催されました。子供を抱えるお父さん、お母さんや出産を予定している方等、33名の住民の皆さんが来場し、紀南医師会大石基夫医師、小山徹医師、紀南病院産婦人科川戸浩明医長、小児科鈴木幹啓医長の4人の医師の話聞いて意見交換をしました。

先生方からは、『熊野地域の産婦人科診療体制は周囲に比べて恵まれている』、『早産(35週未満)を診られる施設がないので、状況によってはやむを得ず遠い病院に行かなければならないことを、本人・家族にも理解してもらっているという印象がある』、『コンビニ受診の背景には不安が高まることにある。気軽にいつでも相談できる体制が必要』、『この地域で小児科医師はひとりなため重症患者の搬送中は小児科医師が不在になる』というようなお話がありました。

その後、2つのグループに分かれて膝を突き合わせた意見交換会を行いました。診察室では聞くことができない夜間急病時の対応や熱発時の入浴の対応等、有意義な時間を過ごすことができました。また、『医師になったきっかけは』『休日の過ごし方は』等のプライベートな話題もあり、白衣を脱いだ医師と気軽に語り合えた1日となりました。



外来診療担当表

平成20年11月1日現在

区 分		月	火	水	木	金
内 科	午前	1診(初診)	(第1~2週) 瀬口 優医師 (第3~4週) 中川 十夢医師	小林 文人医長	杉本 龍亮医師	武田 裕子医師 浦吉 俊輔医師
		2診(初診)				
		3診(再診)			西久保公映副院長 中川 十夢医師 瀬口 優医師	杉本 龍亮医師
		4診(再診)	小林 文人医長	浦吉 俊輔医師	鈴木 光哉医長	關 めぐみ医師
	午後	3診(再診)		鈴木 光哉医長	西久保公映副院長	糖尿病専門外来(月1回)
		4診(再診)		西久保公映副院長	尾辻 典子医師	循環器専門外来(月1回)
外 科	1 診	乳腺専門外来(月1回)	須崎 真副院長	野口 孝院長	野口 孝院長	須崎 真副院長
	2 診	熊本 幸司医師	熊本 幸司医師	熊本 幸司医師	信岡 祐医師	信岡 祐医師
整 形 外 科	1 診	植村 和司医長	倉田 竜也医師	植村 和司医長		倉田 竜也医師
	2 診	倉田 竜也医師	植村 和司医長	倉田 竜也医師	里中 東彦医師	植村 和司医長
脳 神 経 外 科	1 診					仲尾貢二医師(午後) 種村浩医師(午後)
眼 科	1 診	山田 敦医長 (第1・第3 休診)	山田 敦医長	山田 敦医長	山田 敦医長	山田 敦医長
産 婦 人 科	1 診	葛西 普一医長	川戸 浩明医長	關 義長医長	葛西 普一医長	川戸 浩明医長
小 児 科	1 診	鈴木 幹啓医長	鈴木 幹啓医長	鈴木 幹啓医長	足立 基医師	鈴木 幹啓医長
皮 膚 科	1 診	嶋 聡子医長		嶋 聡子医長		嶋 聡子医長
神 経 内 科	1 診					木田 博隆医師 谷口 彰医師 成田 有吾医師
泌 尿 器 科	1 診			堀靖英医師(午後)		
耳 鼻 咽 喉 科	1 診				松浦徹医師(午前)	
歯 科 口 腔 外 科	1 診	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長
備 考	1. 受付時間は午前7時30分～午前11時30分までとなっております。ただし急患については時間外でも受付します。なお当院を初めて受診される患者様及び、診察券をお持ちでない患者様の受付時間は、午前8時からとなります。 2. 神経内科・脳神経外科は現在、新規の患者様をお受けできません。ご了承下さい。 3. 眼科は第1・第3月曜日を休診とさせていただきます。					

紀南病院：専門外来担当先生に聞きました

乳腺外来担当

おがわ ともこ
小川 朋子 先生
(毎月第一月曜日)



●簡単に自己紹介をお願いします

『今年の7月から三重大学病院乳腺センター長として勤務しております。三重大病院のみでなく、三重県全体としての医療レベルアップと均質化をめざして、どの地域の人でも同じような治療ができる体制を考えています。紀南地域にも8月から月一回来ております。』

●乳腺外来について教えてください

『乳がんは今とても増えています。女性にとっては最もかかりやすいガンですが、早期に発見しやすく、それだけ体への侵襲（後遺症）も比較的少なく済みます。健康診断を積極的に受けていただき、異常を指摘されたら乳腺専門外来を受診していただければと思います。』

●自分で触ってみて、おかしいと思ったらどうしたら良いでしょうか

『健診まで待たずに、外科や乳腺外科を受診していただければと思います。』

●先生の趣味は何ですか

『スポーツが好きで、今はトライアスロン、マラソン、サーフィンを楽しみます。』

●抱負をお願いします

『この地域の乳腺診療が充実するように頑張りたいと思います。』
*乳腺外来受診希望の方は、紀南病院に電話で予約してください。

泌尿器科医師

ほり やすひで
堀 靖英 先生
(毎週水曜日午後のみ診療)



●先生の現在の所属を教えてください。

『三重大学大学院博士課程在学中で、大学病院で診察もしています。』

●趣味は？

『車、バイクです。』

●医師を志した理由を教えてください。

『白衣に対するあこがれ、など・・・』

●医学部に入るにはどのようなことが必要だと思いますか。

『忍耐力、集中力と信念。』

●抱負をお願いします

『限られた診療日程ですが、受診を希望される患者さんには、お断りするようなことが無いよう心がけます。』